

ON!

old but New

だいまるゆう
伝統を残しながら、変わり続ける街大丸有
大手町・丸の内・有楽町の
まちづくりを発信する情報誌



憩う、くつろぐ、ランチする
保存版！大丸有のオープンペース

●丸の内オアゾ中庭にて

2013 AUTUMN

030

点と線から見えてくる この街の OPEN SPACE

大丸有地区に点在するオープンスペースは、この街を訪れる人やワーカーにとって欠かせない存在。ゆっくりくつろぐ、疲れた体をしばし癒す、気分転換をする、目を休める、おしゃべりをする、電話をする、簡単な仕事をする、ランチをする…。一日のなかの句読点ともいえるこの空間は、一つひとつのベンチの材質や形状、配置も違っていてなかなか个性的です。

大丸有地区のオープンスペースは、一つひとつが个性的なつくりになっていますが、それぞれが独立に存在しているわけではありません。周辺の道路や歩道、すでにあるオープンスペースとの調和、これから新たにつくられる建物にどう影響を及ぼすか、敷地の考え方にとらわれず、道路を含めた屋外の空間すべてを意識しながら、トータルに考えて設計されています。また、平面的にとらえるだけでなく、地下から見上げ、階上から見下ろし、接する建物の用途や雰囲気とどう連携しあうのか、など重層的につくり込まれています。太陽の光も重要ですし、夜の灯りの雰囲気も大切です。こうした視点でオープンスペースがデザインされることで、街に濃淡が生み出されていきます。

オープンスペースの点と点がつながり、この街の“いいね！”がつくられていく。

この街では、地権者全員が大きな目標を共有して街づくりが行われていますから、「調和」という視点も重要です。たとえば有楽町・丸の内では「街並み形成型」、大手町や八重洲は「公開空地ネットワーク型」の街づくりが基本になっています。前者は丸の内仲通りを軸に両側に沿うように、枝分かれするようにオープンスペースが連続し、後者は点在する核となるオープンスペースどうしが建物内通路などでネットワークされていくイメージです。こうしたさまざまな空間が繋がって、街のオープンスペースが一つになり、「人の気配」を感じさせるために欠かせない街の貴重な存在になっていきます。そんな点に注目して、この街を歩いてみるとまた新しい発見があるのではないのでしょうか。

◀三菱 UFJ 信託銀行本店ビル地下1階のサンクンガーデン。ヤマボウシを2本植えて、ベンチから見上げると梢の先に地上の街路樹が見える重層的な景観になっている



設計者に聞く

(株)三菱地所設計 植田直樹



一号館広場にて▲

管理者に聞く 座るとわかる、緑に抱かれて癒される気持ち

弊社は、一号館広場の設計段階からお手伝いをさせていただき、完成してからは植栽の維持管理も行っています。この広場に来たら、まずベンチに座ってください。高さ10～20mの大木やさまざまな木々が木陰をつくり、香りとともに季節を彩るバラや草花たちが地面をおおい、まるでお伽の森の中にいるような気分を味わうことができます。ベンチに座ることで、緑に包まれ、森を感じ、自然に抱かれ癒されていく。都心でこれだけの多様な緑を管理していくには苦勞もありますが、皆様に愛される空間をつくることを目指しております。



小岩井農牧(株)
足澤 匡

お店の人に聞く

ビストロ ドゥーブル
町田祥子



丸の内永楽ビル1階(6269-9730)

オープンスペースの小径は店に欠かせない存在です。

オープンスペースと一体となった、パリの小径にある気軽なビストロがコンセプトです。外国の方をはじめこの街にお勤めの方はもちろん、小さなお子様連れの方も目立ちます。車が通らず子供が走り出しても安心、ベビーカーも置きやすいということから口コミで広がったようです。ビルの2階に託児所があり、そこのお子様がお散歩をゆっくりお散歩している姿も微笑ましいといわれます。花壇のベンチで待ち合わせをしてから来店するという、小粋な使い方される方もいらっしゃいますよ。

利用者に聞く

東京国際フォーラムでランチを楽しむOLの方



「自然の中」でのランチタイムはとびきりの贅沢ですね!

普段はオフィスやカフェでランチをしています。天気の良い日は友達を誘ってこのベンチに座ってお弁当を食べ、おしゃべりを楽しんでいます。ここではお昼時にいつも、屋台村が開かれています。お店も一定の期間でローテーションしているの、いろいろな料理を楽しむことができます。何度来ても飽きません。都会の中のビルとビルに囲まれた空間なのですが、木々が立ち並び、四季を感じることができます。オフィス街のオアシスで過ごすランチタイムは最高ですね。

インターン学生に聞く

この街にこれほど自由な空間があるとは思わなかった。



ある会社のインターンとしてこの街をくまなく歩きましたが、都心なのに歩きやすいというのが第一印象です。意外に緑が多いこともあるでしょうが、随所に公開空地があるためだと思います。なかでも気に入っているのが丸の内仲通りとスタイリッシュなベンチがあるJ Pタワー南のスペースです。仲通りは木製の座りやすいベンチが適度な間隔で連なっていて歩道と一体感を成しています。また、J Pタワー南は開放感があってゆったりくつろげるところが好きです。



*着席可能数は、編集部調べによる概数です。

■小径系オープンスペース



▲直線の小径に沿って長い木製ベンチが綺麗な曲線を描いている

1 丸仲 WALK

着席可能数：約 70 名
大丸有地区のちょっとした穴場。100m ほど続く直線の小径の片側に長い木製ベンチが続く。オープンテラスのビストロと一体となっておしゃれな路地裏になっている。



▼石のどっしりした長いベンチはゴージャス



2 JPタワー

着席可能数：約 20 名
ゆったりくつろいで飲食に。10 名は座れる長〜い石製ベンチが背中合わせに 2 列。アートを感じさせる空間では軽食をとる人の姿が目立つ。

▼路地に沿って長い石製ベンチが続く小径



3 永楽小径

着席可能数：約 40 名
ちょい掛けでひと休み。大名小路と仲通りを行き来する抜け道のように使われる小径。花壇の縁がベンチになっていて腰掛けられる。



▲▶木製ベンチ、石製ストール、イスにもなる石のオブジェと多彩



4 大手町フィナンシャルシティ+ランチテラス

着席可能数：約 70 名
ランチならここ！ 片側にオープンテラスの店舗が連なり、そこで購入したお弁当をベンチや 2 階のテーブル付きランチテラスで食べる人が多い。1 階の木製ベンチの座面は R 型で腰がすっぽり収まって座り心地が抜群。

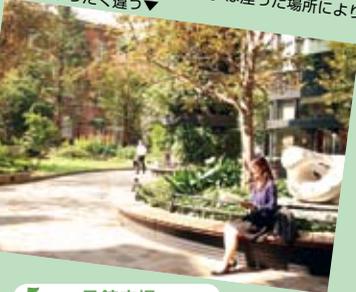


▲2 F のランチテラスは、木製テーブルがついている
*ランチテラスは平日の 10:00 ~ 16:00 のみ開いています。



■公園系オープンスペース

曲線をうまく使った木製ベンチは座った場所により風景がまったく違う▼



オブジェのように見えるが、これもイスとして機能する▶

▼1 本の木を囲むようにベンチが 4 基配置されている



6 東京国際フォーラム

着席可能数：約 80 名
待ち合わせにも最適。木立に囲まれた小公園の雰囲気大人気。ビル街から少し離れて落ち着きがある部分から程よい曲線で優しいつくり。石のオブジェは待ち合わせにもいい。

パーゴラは喫煙コーナー。堂々と一服できる▼



5 一号館広場

着席可能数：約 130 名
大丸有地区のランドマーク。緑の空間を邪魔しない木製ベンチは 2 人掛けから 30 人ほど座れる円形まで多彩。のんびり読書したり、ゆっくり休んだりと思い思いにくつろいでいる。



9 パシフィック センチュリープレイス丸の内

着席可能数：約 55 名
八重洲側の貴重なオアシス。大きな木立に囲まれて長い木製ベンチが 4 基あり静寂で落ち着く。四季折々の風情を都心で楽しむことができる。

▲14~5 名が並んで座れる長〜い木製ベンチ

▼木立に囲まれロケーションは最高



7 和田倉噴水公園

着席可能数：約 85 名
気分転換ランチに最高。この街を訪れる子供たちにも人気だが、ビル街から少し離れて落ち着きがあることから、わざわざここまで来てランチする人も多い。



▲長テーブルのような石製ベンチ。気ままにくつろげる
▼スチールの円錐形イスは独立性が保たれている

8 丸の内オアゾ

着席可能数：約 110 名
ベンチのワンダーランド。口の字型のスペースに、石製長方形の大きなベンチ、スチール製の円錐形のスタイリッシュなイス、ガラスで仕切られた座席スペースなどがあり多目的に使える。



▲入口の石製イス。案外見逃されがち

▼のんびり座ってお濠を眺められる



▲道鏡の野望を阻止したことで知られる和氣清麻呂の銅像がある大手濠緑地

10 常盤橋公園

着席可能数：約 45 名
川を背にしてベンチでくつろぐ。桜の名所として有名な常盤橋公園は現在工事中。しかし、一部が残っていて「いい場所」として健在。

◀日本橋川の袂にある小公園



11 大手濠緑地

着席可能数：約 50 人
大丸有地区の北端近くにある公園。ここを皇居ランニングのスタート地点にする人も多く、ランニング後にお濠をみながらゆっくり休む姿もみかける。スケッチをしている人が多いのも特徴。

ランチテラスは、
ブルがついている
ラスは平日の10:00
のみ開いています。



イス。案内



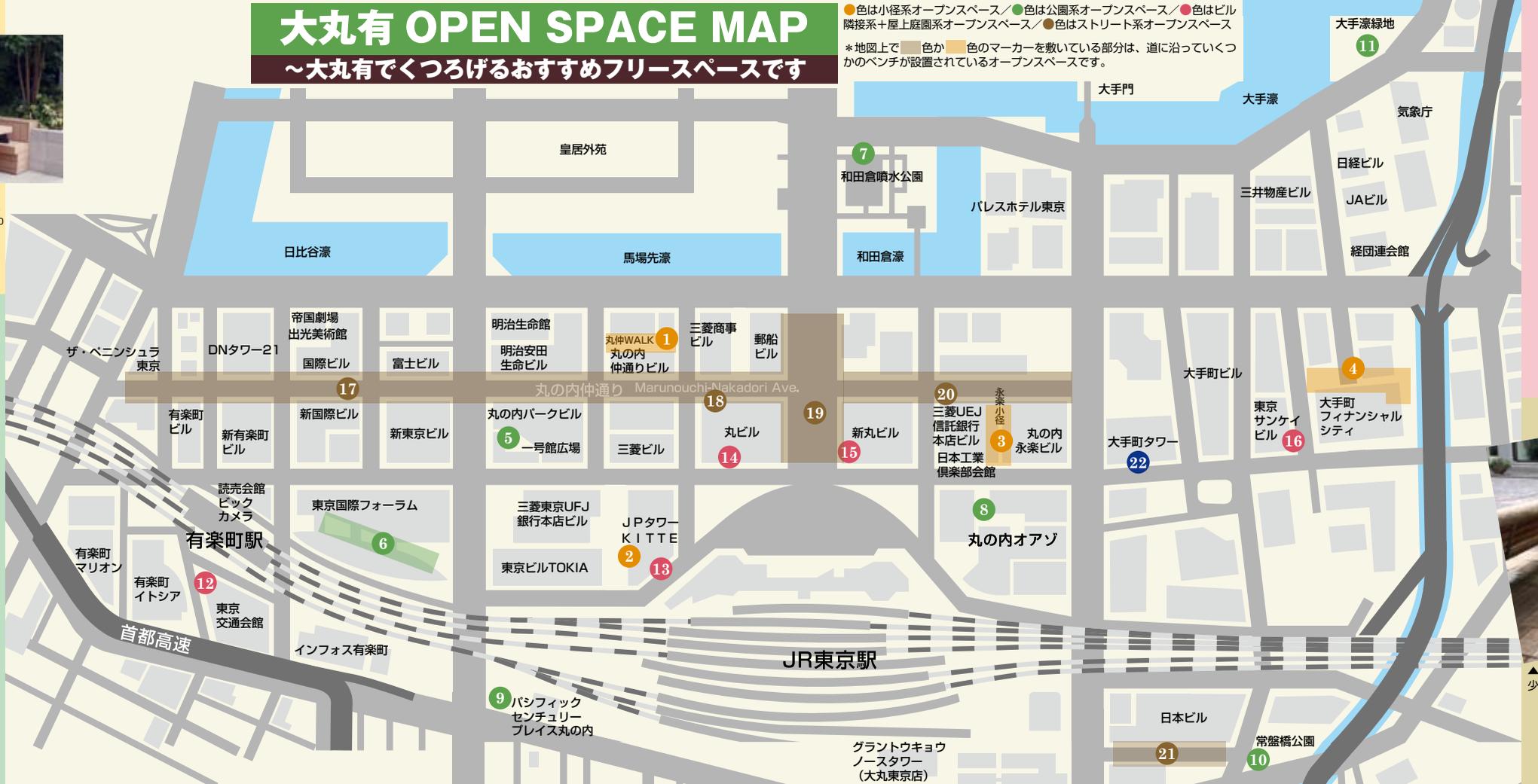
止したこ
麻呂の銅像

ニングのス
ながらゆっ
のも特徴。

大丸有 OPEN SPACE MAP

～大丸有でくつろげるおすすめフリースペースです

●色は小径系オープンスペース／●色は公園系オープンスペース／●色はビル隣接系+屋上庭園系オープンスペース／●色はストリート系オープンスペース
*地図上で 色か 色かのマーカーを敷いている部分は、道に沿っていくつかのベンチが設置されているオープンスペースです。



着席可能数：
ウッドデ
園。円形の
ある。点を
けている
くり走る新



▲新幹線を
くないこい

▲大丸有の中でも
少ない木製ストー

12 有楽町コリーナ

着席可能数：約 15 名
ウッドデッキと石でできた空中庭園。円形の広場の向こうには花壇がある。点在する木製のベンチに腰かけていると、時にビル群の中をゆっくり走る新幹線に遭遇できる。



▲新幹線を間近に見ることができるユニークなこいの空間

■ビル隣接系+屋上庭園系オープンスペース

▼丸の内のパノラマを楽しむことができる



13 KITTEガーデン

着席可能数：約 50 名
一大パノラマが目前に迫る屋上庭園。ウッドデッキの回廊には芝生沿いに直線、その奥には曲線で構成された白いベンチがあり座りながら景観を楽しめる。

▲造形的なベンチは、思い思いに座われてみんなの人気者



14 丸ビルテラス (5階)

着席可能数：ベンチはなし
東京駅と駅前広場が真正面に見えるテラス。床面には一部すりガラスが使用され、夜間のライトアップ時に訪れたい。照明が何ともいえない幻想的な雰囲気を出している。



▲これからの季節におすすめ！

15 丸の内ハウスのテラス (新丸ビル7階)

着席可能数：約 30 名
昼夜ともに活躍する憩いのテラス。背後に皇居の森、眼前に高層ビル群が広がり、木製テーブル&ベンチで夜になると軽く一杯という人も。



▲テーブルもしっかりして、簡単な仕事もできる！
*テラスへの持込みは館内レストランからのみ。

16 東京サンケイビル

着席可能数：約 30 名
ビルの脇にあるユーティリティ・スペース。新聞を読んだりパソコンをチェックする人が目につく。すぐそばに屋台村があるので、ランチタイムに利用する人も多い。



▲石製ベンチは使い勝手がよく意外な穴場

■ストリート系オープンスペース

18 丸ビル&新丸ビル

着席可能数：約 80 名
木立の沿道にあるくつろぎ空間。木製ベンチではちょっとひと休みしたり、読書や会話をを楽しむ人姿が後を絶たない。東京駅の正面に位置する、丸の内の貴重なオアシス。



▲ベンチがL字型に配置されていて、人との距離感がほどよく設計されている

19 行幸通り

着席可能数：約 500 名
「象徴の道」を象徴する御影石のベンチ。およそ 200m におよぶ行幸通りの中央帯の両側に設置されたベンチは、なにする長いのでどんな団体客が押し寄せて来ても大丈夫！



▲ここに全員が座ったら壮観！

20 三菱UFJ信託銀行本店ビル

着席可能数：約 18 名
植え込みと一体となった木製ベンチ。利用者に心地良い日陰を提供するベンチは、歩き疲れてちょっと小休止という人が多い。長くかかりそうな電話連絡にも最適。



▲電話をかけるのに「ちょい掛け」という人も多い

21 日本ビル

着席可能数：約 18 名
ビルの谷間の休息地。高層ビルが連なるオフィス街の休息スポットとして近隣のワーカーに愛用されている。日本ビル農園脇のベンチでは、収穫物を見るのを楽しみにしている人も多い。



▲廃棄塩ビ管を再生してつくったイス。シンプルで座りやすい

▲日本ビル農園では江戸東京野菜などが栽培されている



▲大丸有の中でも数少ない木製ストール

17 仲通りベンチ

着席可能数：約 60 名
丸の内仲通りに面して点在する憩いの場。石畳や道の両脇の樹木が美しい仲通りで、ウィンドーショッピングの合間、移動の合間に木製ベンチやストールに腰掛けてちょっと一息入れる人が多い。



▲座面が曲面になっていて座り心地がいい

第39回「丸の内ストリートギャラリー」開催中

1972年にスタートし、今年で39回目を迎える「丸の内ストリートギャラリー」が9月1日から開催されています。同ギャラリーは芸術性豊かな街づくりを目指し、丸の内仲通り一流アーティストの彫刻を展示するもので、近年は2年に1回のペース（一号館広場は3年に1回）で作品を入れ替えています。今年はその入れ替え年にあたり、草間彌生氏が初めて制作した石彫「われは南瓜」をはじめ10点の新たな作品が登場します。

また、併せてストリートギャラリーを被写体とした写真コンテストも開催。「アートのある街の風景」をテーマに作品を募り、入賞者にはグランプリの「Nikon 1 J3 小型10倍ズームキット」をはじめ豪華賞品が用意されています。

「丸の内ストリートギャラリーフォトコンテスト」開催概要

テーマ：アートのある街の風景

—丸の内仲通り、一号館広場にある彫刻を入れた街の風景写真を撮る—

応募期間：2013年9月9日～12月15日

*応募方法等詳細は、下記WEBサイトをご参照ください。

<http://marunouchi-st-photocontest.net/>



▲「われは南瓜」(草間彌生/2013年、黒御影石 作家所蔵)

「SPIRAL SIKAKU」(木戸修/2009年、ステンレス・スティール 作家所蔵)▶



▲「日光浴をする女」(ティモ・ソリン/1995年、ステンレス・スティール・油彩 公益財団法人彫刻の森芸術文化財団所蔵)



編集後記

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、今後大丸有地区も更なる飛躍を迎えることと思います。実は『ON!』ではいち早く「おもてなし」をテーマにしていました。一体何者か知りたい方はぜひ右記のHPから探してみてください! これから先も『ON!』は皆さまへ大丸有地区の魅力や旬な情報を発信し、大丸有地区から東京、そして日本と一緒に盛り上げていきます!

大手町タワーが一次竣工



大手町タワー(📍)が8月30日に一次竣工しました。大手町タワーの最大の特徴は、敷地全体の約3分の1に相当する約3,600㎡におよぶ土地に「大手町の森」が誕生したことです。これは「都市を再生しながら自然を再生する」という開発コンセプトのもとにつくられたもので、都市開発における新たな試みといえます。「大手町の森」では、大手町の地形区分(地質の特性など)や気候区分(風土に合った潜在自然植生など)を考慮して選定された200本以上の高木が配され、「本物の森」が再現されています。これにより、ヒートアイランド現象の緩和や地域の都市型水害の抑制に貢献するとともに、生物の移動拠点・地域全体の生物の個体数の増加への効果などが期待されます。

なお、この試みを実現するにあたり、本プロジェクトでは「プレフォレスト」という手法を採用。千葉県君津市の山林約1,300㎡に土の起伏やコンクリートスラブの勾配、樹木の密度や種類など大手町タワー計画地と同条件下で施工、植物の生育状況や適切な管理方法など約3年にわたり検証して、大手町タワー敷地に移植するという方法がとられています。また、東西線大手町駅のコンコースが拡幅およびバリアフリー化され、大手町地区の地下ネットワーク機能の向上も図られています。なお、商業ゾーン「OOTEMORI」は10月2日に期gendランドオープンしました。

【計画概要】

敷地面積：11,037.84㎡

延床面積：約198,000㎡

階数：地下6階・地上38階・塔屋3階

高さ：約200m

用途：事務所・ホテル・店舗・駐車場等



発行：一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1

大手町ビル635区

TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/>

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら下記までお寄せください。
machizukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp

東京駅 丸の内駅舎周辺ライブカメラ

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/live/>

『ON!』のバックナンバーはこちら→<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/on/index.html>

「大丸有(だいまるゆう)」とは、大手町の「大丸」の内の「丸」有楽町の「有」からとった造語です。